



初等部だより 1月号

鎌倉女子大学初等部

平成26年1月7日

第10号

## 新年、明けまして おめでとうございます！

部長 松本安博

新年、明けましておめでとうございます。今年も初等部生や保護者の皆様方にとりまして、穏やかで健やかな一年となりますことを心より祈念申し上げます。

今年は、「午年（うまどし）」ということで、新年の街に出てみますと、至る所でいろいろな馬の絵に出会います。さっそうと緑の草原を駆け抜ける馬の絵もあれば、天空を飛ぶペガサスのような馬の絵もあります。また、我が国の伝統文化を感じさせる駒のような馬の絵にも出会います。

私にとって馬と言いますと、3年前、知人と出かけた旅のことを思い出します。帰り道、大井松田か秦野辺りだったと思いますが、大きな牧場に立ち寄って乗馬を楽しみました。本当に簡単な基礎練習の後、みんなの勧めもあって私も馬の背にまたがりました。教えてもらったことを思い起こし、膝を締め、小指に手綱をかけて姿勢を整えました。おとなしい馬と聞いて安心していましたが、あまりの高さと大きな目が私の気配をじっと探っているようでもあり、なかなか踵（かかと）をその馬のお腹に当てることができませんでした。そうこうしていると、どう思ったか私の意に反した方向に、その馬は頭を軽く前後に動かしながら歩き始めました。歩き出しますと、変なもので私も安心と自信が混じり、馬の背のバウンドに合わせて身体を上下させていました。少し余裕が出てきた私が方向を変えようとしますと、馬は急ブレーキをかけて立ち止まります。そして、私の手綱を完全に無視して、またゆっくりと思う方向に歩き始めます。なんとその行き先は、その馬の厩舎の方向でした。未熟な私に呆れて、早くねぐらに帰ろうとしたのだと思います。きっと馬が合わなかったのだと思います。

さて、「午」という字は、比較的簡単な漢字ですが、どうして「馬」という字があてられ

るようになったのでしょうか。

「午」という字は「牛」にも似ていますし、普段あまり見かけない字でもあります。私が思い出すのは、午前や午後、正午に子午線くらいです。昔の人は、「うま」という読み方だけでなく、きっと古（いにしえ）の時代を反映した深い思いや願いなどの意味があって、「午」の字に「馬」があてられたものと推察します。

そこで、少し調べてみますと、「午」は十二支の7番目で、6番目の「巳」と真ん中を分け合っていること、また、「正午」は午後0時で太陽が真南に来る時刻であることから、この世の万物の成熟や結実、躍進や希望を象徴するとの謂れがあることが分かりました。それはちょうど、昔から私たち人類とともに暮らし、実り豊かな緑の山野を駆け抜け、私たちに多くの恵みや幸を届けてくれた天馬にも似ていることから、「馬」という字があてられたようでした。

グローバル化と高度情報化、科学技術革新が急速に進む現代社会を生きる私たちが、常に科学的視点をもって、今の社会や現象を理解し、未来を創造していくことはとても重要です。しかし、それとともに世の不易な価値を古（いにしえ）から学ぶことも忘れてはならないと考えます。

職員一同、今年も率先垂範の姿勢をもって自己研鑽と自己修養に努め、信頼の初等部づくりに意を注いで参りたいと思っています。何卒、よろしくお願い申し上げます。

「人間万事塞翁が馬」

(じんかんばんじさいおうがうま)

— 何事も前向きに、誠心をもって —